



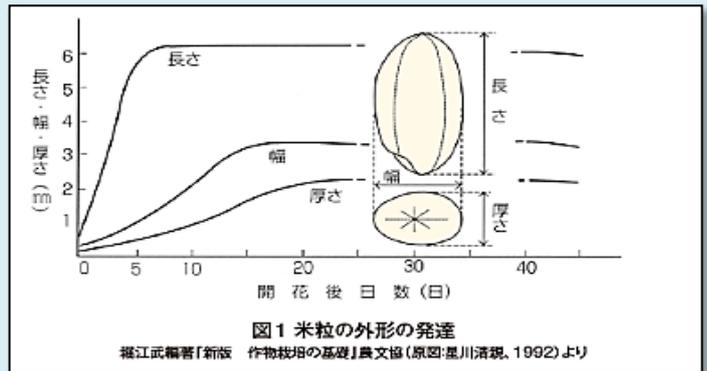
いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。  
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に  
少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。



## いよいよ稲作収穫直前！見逃すな！！収穫適期を！

### 収穫までの水管理

米の粒形は、まず長さが決まり次に幅が決まり最後に厚さが決まります。玄米の肥大する期間は、出穂30日後頃まで続いています。落水が早すぎると、登熟期後半に脱水症状となり玄米が細くなったり未熟粒（白未熟粒など）・胴割れを発生させる要因になり米の品質低下を招きます。



収穫7日前までは、土壌水分を維持させることが大切です。

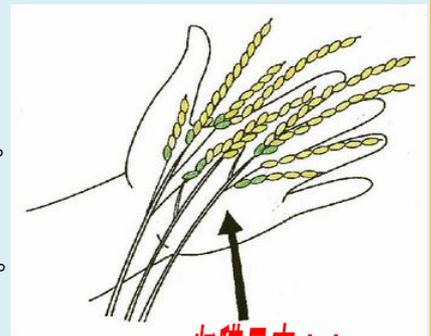
コンバインの作業性を考慮するあまり、水を早く落とし過ぎる傾向にあるかもしれません。

早めに落水を行った場合には、圃場が乾き過ぎていることがありますので、可能な限り走り水を行い土壌水分を維持することが重要になります。

### 適期に収穫をしましょう

収穫適期を判定する目安には、何通りかの方法があります。

- ① 日数でみると早生品種で  
出穂後約35日～45日程度、中生品種で出穂後約40日～45日程度。
- ② 出穂後の平均気温をみる積算温度  
早生品種850℃～1000℃、中生品種1000℃～1100℃。
- ③ 籾の熟れ具合を見て、緑色籾数の割合や、籾水分を計測して判断する方法があります。



**収穫目安！！**

**緑色籾数 3粒～4粒**

### 最終的に収穫適期を見極めるには

穂の基部に緑色籾数が3粒～4粒程度残る頃が収穫適期です。

畔際の稲は生育が少し早いため、少し圃場の中へ入って判断して下さい。

早刈りは未熟粒の増加に繋がり、刈り遅れは茶米や胴割れ粒の増加となり品質が低下します。品質向上のために適期に収穫を行いましょう。